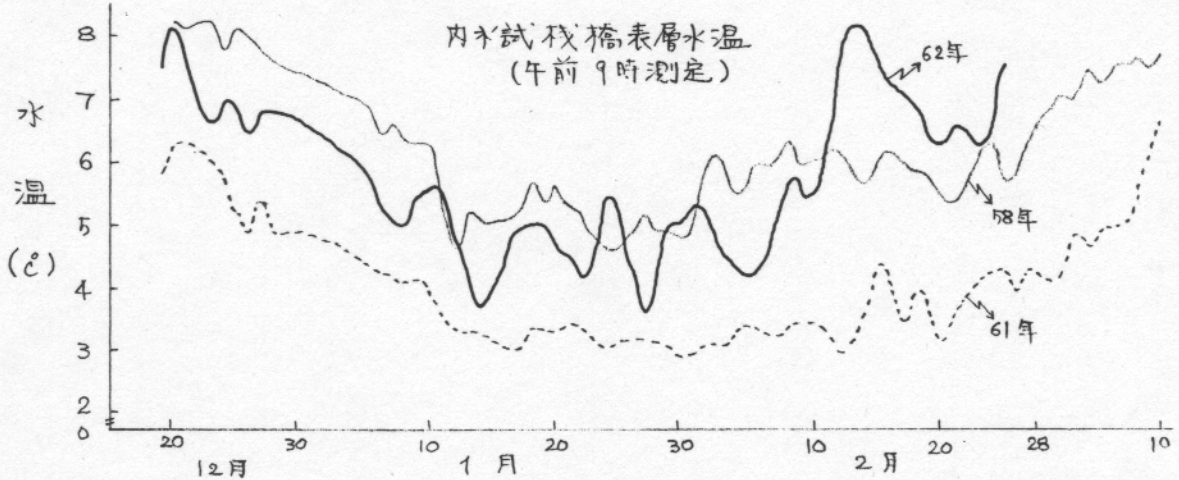


# 高い水温

今年はずっと暖冬で、気温の高い日が多くなっています。気温の影響を受けやすい霞ヶ浦北浦の水温も、同じように高目に推移しています。

下の図は、昨年とやはり暖冬といわれた五十八年の水温変動を示したものです。

これによると、十二月頃迄平年並に推移してきていたのが、一月頃かう高くなり、二月十日頃からは五十八



年より高い状態が続いています。

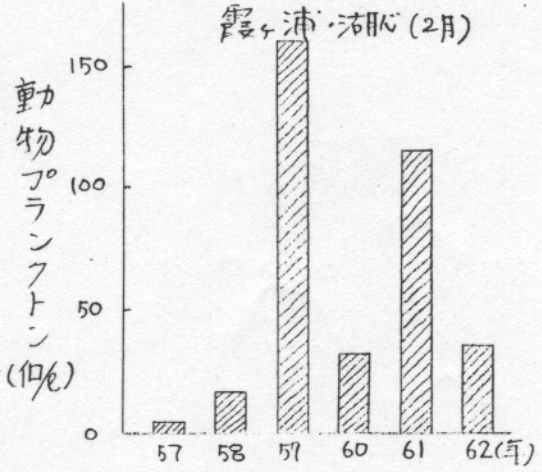
冬期の水温が高いとこの期間の透明度は概して低い傾向になるのですが、霞ヶ浦湖心の透明度が2.1mと、平年並となっていました。

## 動物プランクトン

### はどうなったか

先月の「かわら版」で、霞ヶ浦北浦の動物プランクトンの種類が例年と異なっており、身体が大きなきんぎんこが多くなっていることを報告しました。そして、このきんぎんこがワカサギ稚仔魚の餌として不适当である

ることし書きました。しかし、幸いなことに二月の観測では、前月の約1/3に減っていました。右の図は、霞ヶ浦湖心の動物プランクトン(個/l)の経年変化を示したものです。これは小型の動物プランクトンとみてよいのですが、きんぎんこが出なければ、今年はずっと多くなっていた筈です。



茨内水試図